

令和5年度 学校評価 学校関係者評価

加古川市立野口小学校

1 学校教育目標

『『自主・自律』の心を育てる』 — 心豊かに自ら学ぶ子の育成 —

2 本年度の重点目標

《めざす学校像》  
子ども一人ひとりが生き生きと過ごせる学校  
《めざす児童像》  
① 勉強だいすき がんばる子 ② 心やさしく 正しい子 ③ みんなで運動 きたえる子 ④ 進んで行動 やりぬく子

3 自己評価結果（達成状況）【5：とてもよくできた 4：よくできた 3：できた 2：あまりできなかった 1：できなかった】

評価の観点	評価項目（取組内容）		評価	○取組状況	◇改善の方策
	◎は加古川市R5追記	※はR5最重要取組事項			
考え、表現し、学力を高め合う子どもの育成	○学習習慣および知識・技能の定着による、学習意欲の向上促進		4	4	○協同的探究学習を基に国語科・算数科を中心として、「自分の言葉で話し合い、聞き合う言語活動」に重点を置き、指導法の研鑽に取り組んできた。 ○クロームブックの活用環境を整え、授業中の積極的な導入、持ち帰りによる家庭学習での利用を推進した。 ○基本的な読み書き、計算を丁寧に繰り返し練習させることで、文を書いたり、文章題を考えたりする学習にも、意欲的に取り組むことができるようになってきている。 ◇クロームブックの積極的な活用と並行して、情報活用力・情報モラル等の育成により努めていくことが必要である。 ◇一人ひとりの学習状況を把握し、より一層、個に応じた指導を心がけていきたい。
	◎協同的探究学習とICTの融合を目指す「加古川型スマート探究学習」の推進		4		
	・思考力・判断力・表現力に相当する「わかる学力」の育成				
	・自己有用感の醸成				
自他のよさを知り、かかわり合うことのできる子どもの育成	・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現するための一人一台端末の最大限の活用		4	4	○互いを認め合える児童を育てるため、教師がそれぞれの良さを見つけて褒めたり、違いを個性として認めたりすることで、考え方や受け止め方の手本になるようにしている。 ○毎月の「児童集会」「いじめ防止啓発集会」等、児童会を中心とした取組により、主体的に行動できる児童が増えてきた。 ○「個別の支援計画」「指導計画」の作成状況を見直し、家庭との連携や児童理解につながるよう、より推進することができた。 ◇読書活動を充実させることで、児童の「豊かな心」をさらに育んでいきたい。
	◎ALTやICTを積極的に活用した授業による、実際のコミュニケーションにおいて生かすことのできる英語力の育成		4		
	※「こども同士の良好な関係づくり」に向けた、コミュニケーションを重視した児童の主体的取組の推進		4		
	・「心の絆プロジェクト」の活動の一層の充実				
いのちの大切さを理解し、健康・体力づくりに励む子どもの育成	◎「加古川市いじめ防止基本方針」等の評価検証に基づく取組の充実をはじめとする、いのちや心を大切に教育の推進		4	4	○体育の授業では、6年間の系統をもとに、現学年でどのように取り組むか、評価基準をどのようにするかを事前に確認しながら取り組めた。 ○自分の健康を守る手段として、手洗いやうがいが必要を感じ、進んで取り組んでいる。 ◇「新体力テスト」の結果データを基に、強化を要する項目に対して、全学年で改善に向けて取り組む必要がある。
	・規範意識の醸成と、基本的生活習慣の確立				
	・人権感覚の向上促進				
	・「特別の教科 道徳」の授業展開による、道徳性の育成				
目標を持ち、明るい心で挑戦し続ける子どもの育成	◎特別な支援や配慮を要する子ども一人一人の多様な教育的ニーズに応じた対応の充実		4	4	○児童が抱える問題や心の状態に気付けられるよう、積極的に声をかけ、話を聞くようにしている。 ○「心の相談アンケート」や「アセス」を活用して、児童の抱える困り感の早期把握に努めた。個別で話をする時間をとり、安心して学校に来られるように解決策を話し合った。また、継続して観察・支援している。 ◇元氣な挨拶・返事ができるよう、教師も率先垂範していきたい。 ◇協同的探究学習においても自己肯定感の向上をねらいとしている。児童一人ひとりの個性や思いを肯定的に捉え、のびのびと過ごせる空間・環境作りにより取り組んでいきたい。
	・適切な支援計画・指導計画の作成と、対応の共通理解				
	◎不登校児童生徒への支援の充実と、多様な教育機会の確保の実現		4		
	○学習指導要領および児童の興味・関心を踏まえた、体力・運動能力向上に向けた指導計画の実施・改善		4		
質の高い教育環境づくり	※健康・安全教育の推進による、自身の危機管理に向けて主体的に判断・行動できる正しい知識の育成		4	4	○「自分の身は自分で守る」ことができるよう、児童には日々のあらゆる場面において危険の予測を促している。 ◇学校評価は夏季休業前に、中間評価として簡易的なアンケートを行うこととする。 ◇引き渡し訓練や休み時間を想定した避難訓練など、来たる危機をより想定した訓練の実施が必要である。
	○食育・保健指導の組織的・計画的推進		4		
	※自然学校や環境体験事業、ゲストティーチャー招聘等の体験活動の充実		4		
	○自尊感情の向上に向けた、児童の内面理解に基づく指導の充実と心のケア				
家庭・地域との連携	・定期的なアンケートの実施		4	4	○学校の取組は、ホームページ等を通じて家庭へ発信できている。ミシンボランティアや「職業人と語ろう」、昔遊び等、地域の方の力も活用できている。 ○学校園ユニットの活動として、幼稚園との交流給食や中学校との合同あいさつ運動を実施し、連携を深めることができた。
	○キャリアパスポートの活用や、外部人材の登用によるキャリア教育の推進		4		
	※学校だより・学校ホームページによる教育活動の積極的発信		5		
	○学校運営協議会を基盤とした「協働」活動の実施		4		
教師力の向上	○「超スマート社会」に必要な学びの実現に向けた、ICT環境の整備		4	4	○経験年数を問わず、学年行事や学校行事を取り仕切ったり、大勢の児童や教師の前で話したりする機会を経験していることが、資質・組織力の向上に繋がっている。 ○ミライシードやスカイメニュー等、クロームブックを活用した授業の構成が進んでいる。 ◇特別支援学級の授業見学や研修を通して、職員の特別支援教育に対する理解や具体的なスキルを学び、個に応じたインクルーシブな教育を推進したい。 ◇教員としての資質向上を図る時間を確保するために、業務（事務負担等）の軽減および他者・他機関と連携する必要がある。
	○「学校園連携ユニット」の取組のさらなる充実による、子どもの連続した学びの充実		4		
	○業務改善に向けた組織的取組の推進による、子どもと向き合う時間の確保		4		
	○全教職員の校内研修への積極的取組と、校内OJTを活用した教師力のスキルの伝承		4		
	※「協同的探究学習」「ICT活用による授業」に向けた研究推進体制の充実		4		
	○業務改善に向けた組織的取組の推進による、子どもと向き合う時間の確保		4		

4 保護者アンケート集計及び主なご意見・ご提案

＜保護者アンケート集計から＞  
設問①「学校へ行くのが楽しそうである」・・・89%  
設問③「読書習慣が身に付いている」・・・47%  
設問⑤「あいさつができています」・・・80%  
設問⑨「学校と家庭との連携は図れている」・・・82%  
＜ご意見・ご提案から＞  
・今まで担任の先生に恵まれ、先生方のことが大好きで、よく話をしてくれます。コロナ禍で始まった学校生活で不安はありましたが、楽しく過ごせていることに感謝しております。  
・学校で何かあると、担任の先生から連絡をいただきます。子どもの話す内容が曖昧ですので助かります。よく見てくださっているとわかり、有難く思っています。  
・読書週間のおかげで、たくさんの本を読むようになりました。  
・トイレ時のスリッパを用意してほしい。  
・登下校時、レギンスを着用したい。

5 学校関係者評価

学校自己評価に関する評価 及び 観点別の評価・意見等
<b>考え、表現し、学力を高め合う子どもの育成</b> ・家庭でもChromebookを利用して学習内容をふり返ることは有効であるが、「書く」学習も大切である。なぜ「書く」ことが必要なのか、毎日の積み重ねの効果についても子どもたちに伝えていただきたい。
<b>自他のよさを知り、かかわり合うことのできる子どもの育成</b> ・家庭での読書の時間が少ないようなので、「図書ボランティア」として「おはなし会」や読み聞かせを充実させ、本を探す楽しみや「図書室がいいな」と思える感覚を味わってもらいたい。
<b>いのちの大切さを理解し、健康・体力づくりに励む子どもの育成</b> ・「新体力テストの結果から、本校児童は柔軟性にやや課題が見られるため、体育の時間にそれを向上させる運動を取り入れた」とのことで、大変有効な取組であると考えます。 ・外遊びが大好きであり、大なわとび大会に向けて男女混合で練習に取り組んでいることは、大変に素晴らしいと思う。 ・児童の安全第一という点において、非常時の引き渡し訓練を次年度から再開させるのは、危機管理の意識向上につながると思う。
<b>目標を持ち、明るい心で挑戦し続ける子どもの育成</b> ・授業を参観したが、素直な言葉で周囲の方々へ感謝の気持ち伝える児童の姿に感動し、家庭、学校、地域による教育への強い結びつきを感じた。 ・様々な児童に対して、個に応じた支援を行う保健室の存在は非常に大きいと感じている。
<b>質の高い教育環境づくり</b> ・児童への多くの教師の関わりは、成長には必須であるから、「チーム野口」として学校全体や学年内でしっかり協力していただきたい。 ・「学校が楽しい」とは、学校への安心や信頼があってこそ成り立つ。先生方には、常に児童の命を預かっているという意識を持ち続けて教育活動に取り組んでいただきたい。
<b>家庭・地域との連携について</b> ・民生委員によるミシンボランティアを募集され、その効果があったようである。 ・挨拶は、よい関係づくりにとって不可欠なものであるから、「あいさつボランティア」として、今後も学校に携わってほしい。 ・学校の応援団として地域が協力できることは、今後も支援し続けていきたい。
<b>教師力の向上について</b> ・子どもと向き合う時間の確保、活気あふれる学校づくりに向けて、先生方の業務改善を進めていただきたい。それに向けて協力していきたい。 ・教師としてのキャリアアップのために、常に教師力をアップデートする気持ちを大切にしてほしい。

